

会議録

1. 会議名	第1回 出雲市子ども・子育て会議 社会養護検討部会
2. 日時	平成25年(2013)12月9日(月) 13:30~15:30
3. 場所	本庁3階 大会議室
4. 出席者	<p><委員・専門委員></p> <p>齋藤茂子委員、福代秀洋委員、土江優委員、羽根田紀幸委員、堀江正俊委員、布野和弘委員、吾郷弘司委員、古川泰道専門委員、山本尚樹専門委員 (欠席：福間泰正委員、矢田功委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課長、教育政策課長、学校教育課長、青少年育成課長、子育て支援課課長補佐 ほか</p>
5. 次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 専門委員の委嘱・委員の紹介 3. 部会長の選任(互選) 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 部会について (2) 部会での協議事項について (3) ニーズ調査の実施について (4) 今後の審議スケジュールについて 5. 閉会
6. 資料	<p>資料1 出雲市子ども・子育て会議社会養護検討部会委員名簿</p> <p>資料2 出雲市子ども・子育て会議社会養護検討部会事務局名簿</p> <p>資料3 子ども・子育て支援社会養護検討部会での協議事項について</p> <p>資料4 出雲市の子育てを取り巻く状況等について</p> <p>資料5 地域子ども・子育て支援事業について</p> <p>資料6 ニーズ調査票について</p> <p>資料7 今後の審議スケジュールについて</p>

7. 審議内容

事務局	1. 開会
市部長	<p>第1回の子ども・子育て会議を先般の10月10日に開催し、本市における子ども・子育て支援事業計画や、子育て支援施策等についての審議がスタートした。この会議の中で、計画策定のために重点的にご審議いただく3つの部会の設置を承認いただいた。そのうちの1つである「社会養護検討部会」の第1回の会合を、本日開催させていただく。</p> <p>社会養護に関わる現状をどう認識し、市としてどのように対応していくかを、子育て家庭や関係者のニーズも考慮しながら検討していただくことになる。</p>

	<p>審議にあたり、本会の委員の方々に加え、お二人の専門委員の方にもお力添えをいただく。子育ての現場や子育てを取り巻く社会的なお立場から、ご意見をいただきたい。</p> <p>委員の皆様方には、子どもの養育に対して必要な支援が行われ、一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現をめざし、熱いご審議を賜るようお願い申し上げます。</p> <p>2. 専門委員の委嘱・委員の紹介</p> <p>【資料1「出雲市子ども・子育て会議社会養護検討部会委員名簿」 資料2「出雲市子ども・子育て会議社会養護検討部会事務局名簿」】</p>
事務局	<p>本部会は11名の子ども・子育て会議の委員の方と、2名の専門委員の方で構成され、計13名である。</p>
(各委員)	<p><出席委員・専門委員の自己紹介></p>
事務局	<p>本日は4名がご都合で欠席である。</p>
(事務局)	<p><事務局自己紹介></p>
	<p>3. 部会長の選任（互選）</p> <p>部会長を齋藤委員に決定する。</p>
部会長	<p>部会長という大役を仰せつかり、うまく進めていけるかどうか心配だが、委員の皆様にお力添えをいただき、順調に進めていけたらと考えている。よろしく願います。</p> <p>前回、全体会議で、社会養護検討部会が何をするのかお話しいただいたが、ちょっと振り返ると、結構たくさんのことを広く深く検討する部会のようなものである。復習すると、地域子ども子育て支援事業の量の見込み並びに提供体制の確保の内容及び時期の決定、児童虐待防止対策の推進、ひとり親家庭の自立促進、養育支援が必要な家庭への支援体制等々、たくさんある。一つずつ皆様のご意見をいただき決めていけたらいいと思っている。どうかよろしく願います。</p>
	<p>4. 議事</p> <p>(1) 部会について</p>
事務局	<p>まず、会議の公開、非公開について。審議の内容によっては、固有名詞を出して具体的なご発言をなさる場合もあると思う。委員に、自由に意見を述べていただく観点からは、会議を非公開に行うことが適当と思われるが、いかがか。すでに開催</p>

	<p>された幼稚園・保育所課題等検討部会においても、非公開で審議されたことを報告する。</p> <p>続いて、2点目は会議録の取り扱いである。発言者の名前を除いた形で子ども・子育て会議の委員に郵送するとともに、同じものを市のホームページ上で公開したいが、いかがか。</p>
部会長	<p>意見がないので、本部会は原則として非公開で行う。また、議事録は、発言者の名前を除いた形で公開する。</p>
事務局	<p>議事 (2) 部会での協議事項について</p> <p>【資料3「子ども・子育て支援社会養護検討部会での協議事項について」、資料4「出雲市の子育てを取り巻く状況等について」を説明】</p>
部会長	<p>これから出雲市の子育て支援の基軸になるところ、出雲市の実情に関する資料だった。意見、質問は。</p>
委員1	<p>まず、資料3の協議事項についてだが、子育て支援の3層構造のところの虐待予備軍というのは一般的な言い方なのか。用語的に虐待が想定されるというイメージになるので、一般的にはハイリスクと言い表しているところが多いのではないか。また、資料4の6ページの児童扶養手当の受給状況等のところだが、婚姻数、離婚数の数字からすると、最近のデータが出ていないのでわからないが、ひとり親世帯は増えてきているようである。ところが、手当自体が平成23、24年度のところで横ばいになっている。何か特別な理由があるのか。たとえば、子ども手当・児童手当が支給になった関係で、経済的な支援ができるようになり、こうなったのであればそうかもしれない。全体の課題としてひとり親世帯に対する支援というのが大きくクローズアップされるものと思っているので、分析が必要であろうと思った。</p>
事務局	<p>虐待予備軍層という言葉については、いろいろな文献を見たのだが適切な言葉がなくて使わせていただいた。確かに言われるように虐待を想定した言葉なので、適当な言葉を検討していきたい。市のいろいろな計画を見たりして言葉を出したので、皆さんが一般的にそぐわないということがあれば変えていこうと思っている。</p> <p>2点目の児童扶養手当については調べさせてほしい。</p>
委員2	<p>資料3の3つの子育て層というのは具体的には何歳から何歳までの家庭を対象にしているのか。また、出雲市の現状を総体的、客観的に見ていくために、3つの層が家庭の割合では何%ぐらいなのか。それから、他市の状況がわかれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>具体的に何%という他市との比較はできていないが、虐待の通告数は国にあがっ</p>

	<p>ているので比較ができると思う。今日は何%というのは言えないが次回お示したい。</p> <p>年齢については、本会でも話をしたが、主に就学前の子どもさんの事業というのを考えており、児童虐待に関しては18歳未満の児童を考えている。その子どもがいる家庭の何%がその層になっているかは、現在、進行管理している子どもの数は分かるが予備軍・ハイリスクという部分は安定したり危険になったりするので微妙であり、数字で申し上げるのは難しい。</p>
委員2	<p>なかなか難しいかもしれないが、全体として掴んでおかなければいけない部分ではないかと思う。全体で18歳未満の家庭がいくつあるかは分かると思うが、そのうちの虐待層と呼ばれるところに何人入っているか、あるいはハイリスクのところにとどれくらいいるかということ、できれば掴んで教えていただければと思う。</p>
事務局	<p>整理の仕方として参考になる意見をいただいた。お示しできるよう分析をしてみたい。</p>
部会長	<p>若干、把握できる内容と潜在化したものもあるので、なかなか難しいと思うが、わかる範囲でよろしく願います。</p>
事務局	<p>【資料5「地域子ども・子育て支援事業について」を説明】</p> <p><各課から所管事業を説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業、児童虐待防止対策の推進【子育て支援課、学校教育課、市民活動支援課、健康増進課】 ・妊婦健診、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業【健康増進課】 ・利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業、ファミリー・サポート・センター事業、病児・病後児保育事業【子育て支援課 支援係】 ・子育て短期支援事業、ひとり親家庭の自立促進【子育て支援課 児童家庭係】 ・延長保育事業、一時預かり事業、産後の休業及び育児休業後における特定教育・保育施設等の円滑な利用の確保、実費徴収に係る補足給付を行う事業、多様な主体の参入促進事業【子育て支援課 保育係、教育政策課】 ・放課後児童クラブ【青少年育成課】 ・ワークライフバランス【市民活動支援課】
部会長	<p>忌憚のないところで質問を。全体を通して何か疑問な点等があるか。</p>
委員1	<p>資料5の14ページの5番目の養育支援訪問事業の関係だが、15ページに実施状況のデータがあり、年度を追うごとに減少している。何か背景があるのか。あと、この事業はニーズ調査の項目に入っていないが、基本的にニーズ調査になじまないということで整理されているのか。</p>

事務局	<p>ニーズ調査については国の方で対象にしていけないということである。養育支援訪問については、派遣家庭数は減っているがこの他の支援は増えているという状況である。年度ごとに必要な方の多い年・少ない年があり、件数が多い年度については、双子以上の方への養育支援が多かったことが背景にある。また、乳児院を退所された後の家庭統合が必要で、年度をまたいで集中して訪問支援をしたということがあった。また、精神的な問題を抱えた方が集中したという状況もあった。支援事例によって訪問回数や時間や頻度が異なってくると思う。</p>
委員 1	<p>実際に量の見込みを立てるときに、どのようになるのかということがあるのでお聞きした。</p>
事務局	<p>養育支援訪問事業については基本的に無料であり、実際に養育支援が必要だと思われる人には育児困難アセスメントをして、点数が高い場合や、家庭環境的に非常に大変である場合に総合的に判断して必要な方には支援していく考えである。事前の予防対策をして支援数が減っていくことは必要なのかもしれないが、過去の実績にもあるとおり、必要な方には検討して支援していくという事業であろうと考えている。</p>
部会長	<p>最高何回くらい訪問したのか。</p>
事務局	<p>過去に、週に4回とかもあったようだ。最近では週2回とか、3か月後とか。基本的には半年で見直しをかけているが、お母さんの状況等により、例えば、ニーズが変わってきたので助産師訪問を減らしてヘルパーに代えとか、状況に応じて、基本を踏まえつつ全体的な判断をしている。</p>
部会長	<p>個々いろいろ事例があるということである。</p>
事務局	<p>アセスメントをして今後の計画・ケアプランを立て、だんだん週1を月1回にできる人もいるし、できない人にはたとえば週1で訪問するというやり方となる。制度導入するまでのところで保健師訪問を集中する必要がある方にはほぼ毎日のように行く。また、例えば一時預かりや子育て短期支援事業、精神障がいのある方であれば自立支援法のヘルパーなど、これ以外の事業を併用することもあるので、いろいろなサービスを調整しながら利用状況が変わるものだと思う。ひとり親家庭へのヘルパーサービスとかも組み合わせながらなので、家庭環境や状況が個々に違う中で、検討、判断、対応している。</p>
委員 3	<p>ファミリー・サポート・センター事業や子ども預かり事業と、病児病後児保育は、表裏一体の関係ではないかと思う。病気になった子どもを誰かに預かってもらえ</p>

ば病児保育に行かないだろうし、預かるところがなければ病児病後児保育になるからである。そうすると、平成20年度くらいから子どもの預かりがだんだん右肩下がりになっており、その代り病児病後児保育が増えているというのは分かるが、平成24年度は両方減っているのをどう解釈するか。利用が減ったのではなくて、たまたまこの年は感染症が少なかったのではないかと考えれば納得できる。インフルエンザの流行に限ってみれば、23年度と24年度は全然違う。24年度の流行の規模はおよそ半分で、23年度を大流行とすれば中流行から小流行で終わった。よって、その年によってある病気が流行ったときには病児病後児保育が必要になるし、そうじゃない時には需要が落ち込むだろう。だから単年度で見ていくのは、そこを分析しないと本当の意味での必要な数は出てこないのではないだろうか。

実は今年、アデノウイルス感染症という俗にプール熱、正式名称は扁桃結膜熱というものが、例年と比べたら大流行している。それから、去年からRSウイルスという感染症が保険で検査できるようになった関係で、今まで診断がつかなかったのがずいぶん診断できるようになって数の上では増えてきている。そういったものが出てくると、保育園に行かれない、行かせられないということも多くなってくるので、平成24年度が減っているというのも、本当に減ったということにはならないのではないか。たぶん今年は中間なので、今年のデータは出てないと思うが、その辺も含めて考えていかないと、落ち着いてきたというのはたまたま一時的な現象ではないのかと私は受けるがいかがだろうか。

事務局

病児病後児保育事業の平成24年度の落ち込みについてということで、市の方では委員3のおっしゃるような形で病気の流行の状況等での分析をしていなかったのが参考になった。もう一つ病児病後児が24年度に落ち込んだ理由で委員3が言われたこと以外にも理由がある。この事業は市の直営事業ではなくて、各施設が事業主体となってされている事業である。それぞれの考えでお子さんの受け入れをしている。その中で、一部の施設でちょうど担当の保育士が産休に入り、定員はもう少し受け入れが可能だが、慣れていない保育士が臨時で担当されたということがあって、ちょっと利用を抑え目にされたということが、24年度については他の理由としてあった。25年度については、24年度に比べて現状でいくと若干増えているという状況がある。時期が来たら示したいと思う。

部会長

それぞれの年度の背景を少し分析しないといけないというご意見だったと思う。他にいかがか。

委員4

6ページの引きこもりの児童数のことに関してだが、ここに不登校及び不登校傾向とあるが、これをもう少し細かく数値を分けてほしい。欠席日数30日で不登校に該当するということがあるので。それとその傾向として、予備軍に近い子どもさんが何人いらっしゃるのか。もう少しこのへんを具体的な数値が分かれば示していただきたい。

	<p>もう一点は 7ページのDVの件数だが、出雲市の生活安全課の相談窓口と合わせた合計なのか、これは出雲市の女性相談センターにおけるだけの相談件数なのか、そのへんの確認をしたい。</p>
事務局	<p>女性相談の件数は、出雲市の女性相談のみの件数をここにあげている。出雲市では女性相談センターと別に、本庁の中で女性のための総合窓口というところでも扱っているの、その数字はこの資料には掲載していない。必要であれば出させていただきます。</p>
事務局	<p>不登校及び不登校傾向の数については、昨年度、不登校による30日以上欠席をした児童は、小学校では52名、中学校では157名で、合計209名である。これは、病気とかその他の経済的な理由とかを除いたいわゆる不登校の子ども数である。傾向については、ここには数を持ってきていないが、209名よりすこし少ない数で、いわゆる予備軍といわれるような子どもたちもたくさんいる。この数は23年度よりは少し減少したが今年度はまた少し増加の傾向にあり、対応に苦慮している。背景についても、いろいろな理由があるが、家庭の環境の問題とか、そういうところも大変大きな課題になっている。</p>
部会長	<p>あわせて、6ページの下の方の図は引きこもりがちな児童生徒数の2か年のデータだが、新規だけなのか継続を含むのか。重なっている方もあるか？</p>
事務局	<p>何%か何人かというのは分からないが、継続して引きこもっている子どももいる。</p>
部会長	<p>他にいかがか。</p>
委員3	<p>12、13ページのところで質問させてほしい。あかちゃん声かけ訪問の実績が21年度から継続して全体で90%後半となっている。大変な努力をされていることはこれを見て一目瞭然わかんと思う。4か月までの訪問率が出ているが、いつごろ行ったかというのは分かるか。というのは、実は最近予防接種がどんどん変わってきており、生後2か月や生後6週間からできる予防接種がでてきている。そうすると4か月では遅いという場合も出てくるということになると、マンパワーの問題などはなかなか難しいと思うが、なるべく早く予防接種のことを含めた指導なり相談なりアドバイスをしてもらおうとありがたいと思う。</p>
事務局	<p>訪問については、専門職訪問、保健師・助産師訪問を、だいたい1か月までに、または1、2か月までに行っている。里帰り出産から帰ってきてから訪問してほしいという方もそうである。だいたい2か月くらいまでに98%位は訪問している。あかちゃん声かけ訪問では、4か月児健診を4か月になった翌月に案内しているので、地域の民生児童委員さん、主任児童委員さん、子育てサポーターさんに、その</p>

	<p>4か月までのところでもう一回行ってもらい、地域の方は玄関先が多いが、どうですかと声をかけ、子育て情報の提供であったり、小児の事故予防のパンフレットを丁寧に配っていただいたりしている。</p> <p>よって、専門職の方は体重測定も含めて、2か月までのところではほぼ行っている。入院やさまざまな諸事情があるような方は特別なのでずれたりするが、2か月までの訪問を心掛けて現在やっている。予防接種もいろいろ変わるので、情報を教えていただければと思う。よろしくお願いします。</p>
委員3	<p>予防接種に関しては、肺炎球菌とヒブが定期化されたが、今後ロタワクチンもいずれ定期化されると思うし、そうなるとスケジュールが前の方に前の方に密になってくるので、今後のマンパワーの問題としてちょっと必要かなと思う。</p>
部会長	<p>他にいかがか。</p>
委員5	<p>何点か確認したい。一つは30ページの延長保育事業だが、保育園と幼稚園によってこの延長保育についての表現が違う。保育園だと延長保育というネーミングが使われて、幼稚園については延長保育でなくて預かり保育である。幼稚園の延長についても、あるいは幼稚園の預かりについても、経費上の負担が発生するということでよろしいか。</p> <p>幼稚園の預かり保育が、資料のとおりなのかどうか。経費が発生しているかどうかということをお尋ねしている。</p>
事務局	<p>幼稚園については、名前はこのとおりである。もともと保育園と名称が違うというところは、そもそも国の所管官庁からスタートして、系列がちがうというところから来る部分もあると思う。幼稚園の方では預かり保育事業ということでやっている。経費の方は表のとおりである。実際に保護者の皆様方にご負担をいただいている。</p>
委員5	<p>31ページに表が出ているが、出雲のところを見ると5か所の幼稚園がこの制度を行っているようである。私はよく幼稚園に孫を迎えに行くのだが、2時か3時かという迎え時間がある。私が迎えに行く幼稚園が預かり保育事業を実施しているかどうかわからないが、1時間でも延長して保育しているということになると預かり保育になるのではないか。あくまでも資料のとおり4時30分というのが預かり保育の設定時間なのか。</p>
事務局	<p>おっしゃっている預かりは、制度化された預かり保育ではなく、地域の実情等で幼稚園が独自に行っている自主的なサービスではないかと思う。2時のところを1時間の延長ならいいよというところが何園かある。これは実際制度化されたものではないので、その場合には料金等はいただいている。</p>

<p>委員 6</p>	<p>9 ページの一番右の下のところに地域の居場所、仲間づくりということがある。現在、縦割りではなくていわゆる横のつながりになるような、地域の主任児童委員さんとか地域の子育てボランティアの方々によるサロン事業が、ずいぶん活発に行われているのではないかと思う。そこには市から保健師さんにお出かけいただき、いろいろ指導いただいたり相談を受けたりしている。保健師さんは、だいたい出雲市内全部の活動を掌握しておられると思う。今私がやっているところでは、お母さんとお母さんが子育ての悩みについて、どうしたらいいか話したりする広場になっている。このような状況を見ると、虐待にならないように、お母さんが孤立・孤独にならないように、縦の線ではない横のつながりを、もっと大事にしていくべきではないかと思う。この表には出てこないかもしれないが、これからの地域の住民の皆さんの力をいい形で応援していくことが大事ではないかなと思っている。例えばクリスマスが近いときにクリスマスの作業を保健師さんだけでやられてもなかなかできないのを、お母さんが何かの仕事を任せられて自信を持って喜んでくださるようにすることによって、虐待とか子育てについてもいい知識をもらって帰られるという素晴らしいものがあると思う。もう少しそこに力を入れていくことが大切ではないか。今日の表には載らないかもしれないが、市民のみなさんの力を育てることが何より大事であろうということで提案する。もう一つ、サロン事業を掌握しておられるかということを確認したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどおっしゃった、地域のお母さん方に主体的に動いてもらえるような仕掛けづくりとか市民の皆様方の力は非常に重要と思っている。子育てサロンとか子育てサークルは40いくつかあるが、その中では地区社協の方が展開してくださっている部分もあるし、地域のコミュニティセンター（コミセン）で熱心に子育て支援部会をコミセン事業の中に位置づけてそこからの発信でいろいろ企画をしてくださっているところもある。出生数が多い地域では保健師が年齢別に分けてグループを作って集まっていたりしている。地域ごとにさまざまな形で展開しておられ、コミセンや地区社協のみなさんのアイディアなどにより展開される部分は地域の良さでもあると思っている。</p> <p>保健師は、訪問や緊急のことで毎回出かけることができないが、お母さん方の声や様子を報告してもらっている。この前、親子健康づくりネットワーク会議をしたなかで心に残っている主任児童委員さんの言葉に、お母さんたちのサークルや集いの活動を全面的に支援するのではなくて、最近はお母さん方にだんだんに主体的になってもらうように働きかけているというものがあった。本当にそういう形になっていけばいいと思う。サークルの中でも、リーダー的な方がいたり、一人一役でも何か役割があったりするといいいのではというのは、おっしゃるとおりだと思う。また、子育てサポーターさんとかが活動するときのお手伝いなどに、結構気軽に入ってきてくださる方がおられたり、その方々がまた運動やクッキングなどのアイディアを出されたりするなど、お母さんをちょっとずつ引き上げてくださっているようであ</p>

<p>委員 7</p>	<p>る。先日子育てサポーター交流会をした中で、そのような声をキャッチしている。</p> <p>6 ページの虐待の部分の関係で、虐待と体罰の違いについては、学校の先生と親の見方に違いがあるのではないかと考えている。ここで教職員の虐待に対する意識、資質の向上を図るとというのが記載されている。すごく大事なことだと思っている。先生の仕事というのは、見ていてすごくいっぱいいっぱいになさっておられる気がしている。その中で、意識、資質の向上もできなくはないかもしれないが、先生たちに対しフォローをしてあげるべき保護者自体も研修や勉強が必要ではないかと、今回お話をきかせていただきすごく感じた。課題の中で色々あがっているが、保護者への勉強や学習も一つ提起してもらったらよいと思っている。虐待は分かりづらい状況がある時代で、案外うちの子もそうなっているかもしれないが、そのようなことがないようにしていきたいと思っているので、もし課題の中に入れていただけるものならいいと思っている。</p>
<p>事務局</p>	<p>教員の大変さをわかっていただき大変ありがたいと思いながら聞かせていただいた。虐待に至ってしまう保護者は子どもが小さいころから子育て支援課や福祉部でしっかりと関わってもらい、そのなかで子どもは学校にあがっているというケースが多い。まずは他課と学校の連携をしっかりと行っているところである。それも兼ね合わせて、保護者への研修、学習の場があると、保護者本人も、周りで支える保護者との支えあいというところへいけるかもしれない。課題や今後目指す方向性にも書いているとおり、家庭の支援に力を入れたいと思っている。</p>
<p>委員 3</p>	<p>先ほど幼稚園と保育園では監督官庁が違うと言われたが、部会の中では両者の風通しは良いのか。よくあってほしいと思っている。そのためにこの会議ができたのだと思う。これから5歳児健診というものが事業として始まる可能性がある。この目的は、どうやっても学校に適応できない子は専門家が見ないとだめだと思うが、ちょっと手をかけてやれば適応できる子どもは、5歳でチェックして1年間かけて丁寧に関わっていけば、6歳で学校にあがった時に普通の教室に行ける。そういう子を早く発見してやるのが一番の目的だと思う。そういったときに保育園と幼稚園と両方に5歳児がいるので、風通しがよくないといけないのではないか。病気に関しても、幼稚園だと学校保健法の縛りがあるが、保育園は全然ない。学校だと学校感染症情報がホームページでパスワードを入れれば自分の往診している学校がどうなのかがわかるし、全体の流れも分かるようになっているが、保育園は今どこで何が流行っているのかなかなか出てこない。保育園も幼稚園も同じ土俵でパッと状況がわかるようになると、いろんなことがやりやすくなると思う。すくなくともこの部会の中で風通しをよくしてもらえればありがたいと思う。</p>
<p>部会長</p>	<p>幼稚園保育所一元化が今後の動きなので風通しは良いのではないかとと思うが、どなたか風通しについて。</p>

市部長	<p>私の方から。委員が言われるとおり、出雲市の現状ではそれぞれの所管どうして個別の事業について細かいところまで連携していきことがなっていないところはあると思う。発達障がいなどは去年からモデル的にいろんな調査を始めており、今後は、そういった連携をしながら進めていくというのは可能ではないかと思う。またこういった部会で教育委員会や健康福祉部の職員が事務局として連携し、子ども・子育て会議でまさに連携してこれから進めようとしている。今後の大きな課題ではあるが、極力そういう方向で進めていきたいと思っている。</p>
部会長	<p>そろそろ時間だが、11ページの妊娠届が生まれてからのという数字が、どういう理由だったのか気になった。また、28ページの保育士が足りないというのはだいたい何となく分かっているが、どれだけ足りないのかとか需給見通しとか、たぶんここの部会ではないとは思いますが、また一緒に検討していけたらどうかと思っている。</p>
事務局	<p>議事 (3) ニーズ調査の実施について 【資料6「ニーズ調査票について」を説明】</p> <p>既にニーズ調査の項目は本会で検討して委員の皆様へ送付させていただいた。就学前の子どもさんのいるかたを3,000件抽出し、12月3日に送付した。1月10日を締め切りとして提出していただき、その後集計した結果を2月、3月頃の部会で報告させていただきたいと思っている。本日は項目の検討というよりも、こういうものを送らせていただいたという一覧表をお配りした。項目と設問の狙いというところと、先ほどお配りした資料5の表紙のところにニーズ調査がある事業とない事業を載せているので、そこを見ていただきたい。この中でクロス集計なりをして今後の検討資料としたい。</p>
事務局	<p>議事 (4) 今後の審議スケジュールについて 【資料7「今後の審議スケジュールについて」を説明】</p> <p>本会とあわせてスケジュールを載せている。今日12月9日に第1回の社会養護検討部会をさせていただいた。先ほど言ったニーズ調査の結果報告をするため、第2回の本会が3月に予定されている。その前段で経過報告や本会に報告する内容検討のための第2回の社会養護検討部会を開催させていただきたい。年度をまたいで26年度には本会は前期後期各2回を予定している。その前段で社会養護検討部会を4回予定している。具体的な事業項目が非常にたくさんあるので、この会で検討し、後半は計画策定の文言について検討していきたい。詳細を書いていないが、こういう開催予定ということをご報告させていただく。</p>

部会長	以上、本日予定していた議事はすべて終了した。これにて審議を終了させていただく。委員の皆様には、ご協力に感謝申し上げます。
事務局	5. 閉会 部会長にお礼を申し上げます。また、皆様も活発な意見をいただきお礼申し上げます。事務局で整理できていない部分もたくさんあり、ヒントをいただいた部分もあったので、今回の報告にあわせて回答できなかった部分も一緒に報告したい。 これにて今回の会を終了させていただく。